

全国を概観した地震動予測地図

National Seismic Hazard Maps for Japan (2007)

確率論的地震動予測地図 Probabilistic Seismic Hazard Map (基準日:2007年1月1日)

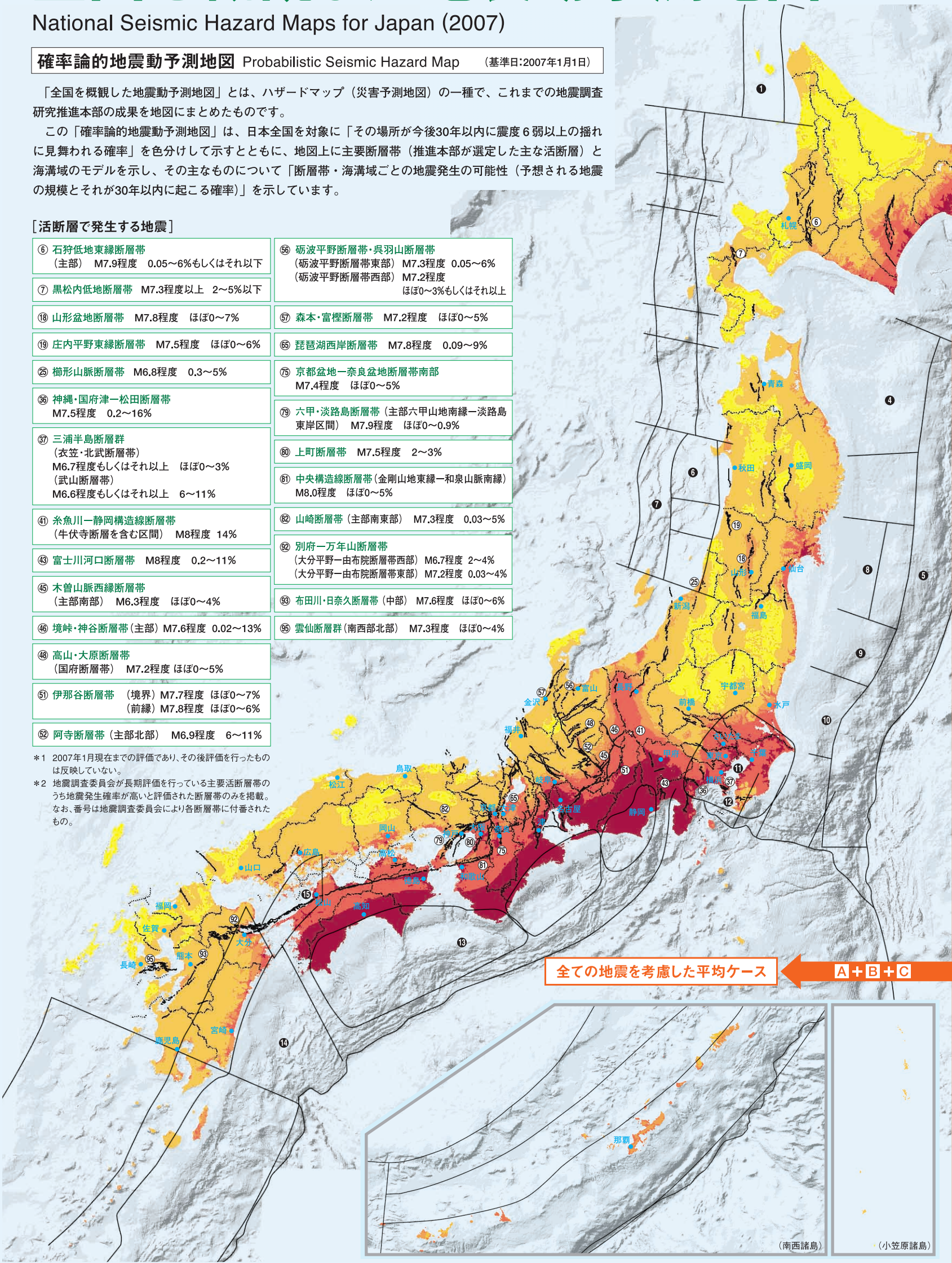
「全国を概観した地震動予測地図」とは、ハザードマップ（災害予測地図）の一種で、これまでの地震調査研究推進本部の成果を地図にまとめたものです。

この「確率論的地震動予測地図」は、日本全国を対象に「その場所が今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」を色分けして示すとともに、地図上に主要断層帯（推進本部が選定した主な活断層）と海溝域のモデルを示し、その主なものについて「断層帯・海溝域ごとの地震発生の可能性（予想される地震の規模とそれが30年以内に起こる確率）」を示しています。

[活断層で発生する地震]

⑥ 石狩低地東縁断層帯 (主部) M7.9程度 0.05～6%もしくはそれ以下	⑤⑥ 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯 (砺波平野断層帯東部) M7.3程度 0.05～6% (砺波平野断層帯西部) M7.2程度 ほぼ0～3%もしくはそれ以上
⑦ 黒松内低地断層帯 M7.3程度以上 2～5%以下	⑤⑦ 森本・富樫断層帯 M7.2程度 ほぼ0～5%
⑮ 山形盆地断層帯 M7.8程度 ほぼ0～7%	⑥⑤ 琵琶湖西岸断層帯 M7.8程度 0.09～9%
⑲ 庄内平野東縁断層帯 M7.5程度 ほぼ0～6%	⑦⑤ 京都盆地－奈良盆地断層帯南部 M7.4程度 ほぼ0～5%
⑳ 橿形山脈断層帯 M6.8程度 0.3～5%	⑦⑨ 六甲・淡路島断層帯(主部六甲山地南縁－淡路島東岸区間) M7.9程度 ほぼ0～0.9%
㉓ 神縄・国府津－松田断層帯 M7.5程度 0.2～16%	⑧⑩ 上町断層帯 M7.5程度 2～3%
㉔ 三浦半島断層群 (衣笠・北武断層帯) M6.7程度もしくはそれ以上 ほぼ0～3% (武山断層帯) M6.6程度もしくはそれ以上 6～11%	⑧① 中央構造線断層帯(金剛山地東縁－和泉山脈南縁) M8.0程度 ほぼ0～5%
④① 糸魚川－静岡構造線断層帯 (牛伏寺断層を含む区間) M8程度 14%	⑧② 山崎断層帯(主部南東部) M7.3程度 0.03～5%
④③ 富士川河口断層帯 M8程度 0.2～11%	⑧② 別府－万年山断層帯 (大分平野－由布院断層帯西部) M6.7程度 2～4% (大分平野－由布院断層帯東部) M7.2程度 0.03～4%
④⑤ 木曾山脈西縁断層帯 (主部南部) M6.3程度 ほぼ0～4%	⑧③ 布田川・日奈久断層帯(中部) M7.6程度 ほぼ0～6%
④⑥ 境峠・神谷断層帯(主部) M7.6程度 0.02～13%	⑧⑤ 雲仙断層群(南西部北部) M7.3程度 ほぼ0～4%
④⑧ 高山・大原断層帯 (国府断層帯) M7.2程度 ほぼ0～5%	
⑤① 伊那谷断層帯(境界) M7.7程度 ほぼ0～7% (前縁) M7.8程度 ほぼ0～6%	
⑤② 阿寺断層帯(主部北部) M6.9程度 6～11%	

- *1 2007年1月現在までの評価であり、その後評価を行ったものは反映していない。
- *2 地震調査委員会が長期評価を行っている主要活断層帯のうち地震発生確率が高いと評価された断層帯のみを掲載。なお、番号は地震調査委員会により各断層帯に付番されたもの。



全ての地震を考慮した平均ケース A + B + C

[海溝型地震]

① 北海道北西沖 M7.8程度 0.006～0.1%	⑨ 福島県沖 M7.4前後 7%程度以下
② 根室沖 M7.9程度 30～40%	⑩ 茨城県沖 M6.8程度 90%程度
③ 十勝沖 M8.1前後 0.06～0.9%	⑪ その他の南関東の地震 M6.7～7.2程度 70%程度
④ 三陸沖北部 M8.0前後 0.09～9% M7.1～7.6 90%程度	⑫ 相模トラフ沿いのM8程度の地震 (大正型関東地震) M7.9程度 ほぼ0～1%
⑤ 三陸沖～房総沖の海溝寄りのプレート間大地震 (津波地震) Mt*8.2前後 20%程度 ※津波の高さから求める地震の規模	⑬ 南海トラフ (東南海) M8.1前後 60～70%程度 (南海) M8.4前後 50%程度 ※参考値(想定東海) M8.0程度 87%
⑥ 秋田県沖 M7.5程度 3%程度以下	⑭ 日向灘のプレート間地震 M7.6前後 10%程度
⑦ 佐渡島北方沖 M7.8程度 3～6%	⑮ 安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震 M6.7～7.4 40%程度
⑧ 宮城県沖 M7.5前後 99%	

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

高い

やや高い

26%以上
6%～26%
3%～6%
0.1%～3%
0.1%未満

凡例

活断層・海溝型 断層あるいは海溝の名称

地震規模 30年以内に地震(マグニチュード)が起こる確率

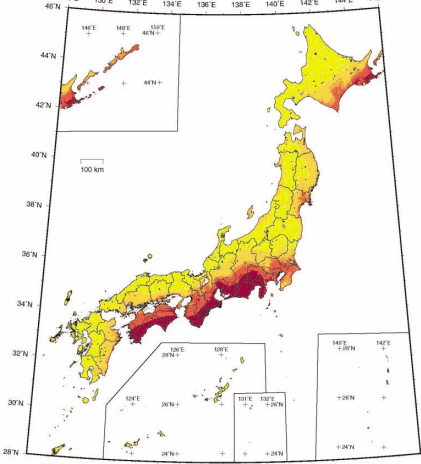
ほぼ0%とは0.001%未満をいう。確率は2007年1月1日時点

兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)の時に動いた断層帯の地震発生直前の発生確率は0.02～8%

平成7年1月に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)は、六甲・淡路断層帯主部の淡路島西岸区間(野島断層を含む区間)の中で発生しました。その断層帯での地震直前の地震発生確率を後から計算したところ、30年以内に地震が発生する確率は0.02～8%であったことがわかりました。

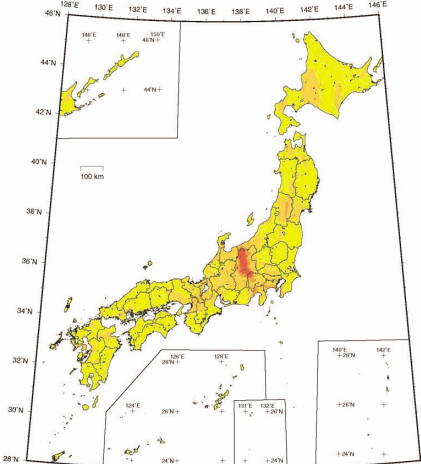
A 海溝型地震のみ

長期評価した7つの海溝型地震を考慮して作成したもの



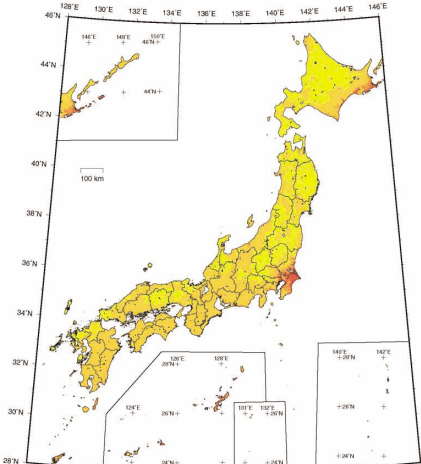
B 主要断層帯の固有地震のみ

長期評価した100の主要断層帯で発生する地震を考慮して作成したもの



C その他の地震

長期評価の対象になっていないその他の活断層帯で発生する地震や、震源断層を予め特定しにくい地震などを考慮して作成したもの



地震分類別の「確率論的地震動予測地図」

「A海溝型地震のみ」では、太平洋側の地域で海溝型の影響が大きくなっており、「B主要断層帯の固有地震のみ」では、発生確率の高い主要断層帯で強い揺れに見舞われる確率が高くなっています。また、「Cその他の地震」では、特に関東地域や北海道の東部太平洋岸で強い揺れに見舞われる確率が高くなっています。

「全国を概観した地震動予測地図」[http://www.jishin.go.jp/main/p_hyoka04.htm]
(独)防災科学技術研究所 地震ハザードステーション J-SHIS [http://www.j-shis.bosai.go.jp/]

この地図は、文部科学省の委託により、(財)地震予知総合研究振興会地震調査研究センターが作成した。

文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課(地震調査研究推進本部事務局)

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号 電話03-5253-4111(代表) E-mail:jishin@mext.go.jp
Earthquake and Disaster-Reduction Research Division, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-8959, JAPAN

この地図は、測量法第29条に基づく複製承認を得て、国土地理院発行の5万分の1地形図を複製したもの(平18総復、第1085号)を転載したものである。
この地図の海底地形は、日本海洋データセンターの水深データを使用したものである。